

# リスクコミュニケーション

学習会「安曇川水害から学ぶ」(高島市)

- 安曇川水系治山治水事業促進協議会が主催。
- 水害体験者からの情報提供。
- 白地図を囲み、安曇川が破堤したらどこへ避難するかを話し合い。
- 10地区で約260名が参加(若い世代の参加が課題)。



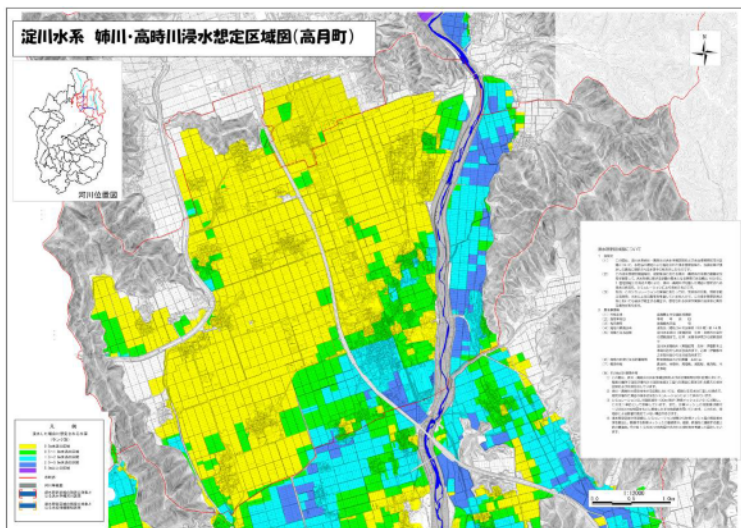
昭和28年台風13号時の被害写真  
(高島市安曇川町二ツ矢地区)

55

# リスクコミュニケーション

浸水想定区域図の活用(高月町)

- 姉川・高時川浸水想定区域図の公表(平成19年6月)をきっかけに、区長会で説明した後に、**全32集落を対象に行政懇談会を開催**し、水害に対する啓発活動を実施。(平成19年6月～9月)
- 今後は(余呉川浸水想定区域図公表後)、**各集落とハザードマップの共同作成**を計画



資料提供: 高月町

# リスクコミュニケーション

子どもを介したリスクコミュニケーション(岩手県釜石市)

- 防災講演会等の行政が開く啓発イベントでは、子どもを持つような若い世代の参加は極めて少ない。

そこで、子どもを介したリスク・コミュニケーション！

- 子どもとその親を対象としたアンケート調査  
子どもが学校で回答したアンケートを親がチェック



Q. 家に一人で居る時に、大きな地震が発生しました。あなたならどうしますか？

A. お母さんに電話する。

Q. お子さんの回答をご覧になって、お子さんが津波に遭遇したとき、無事に避難することができると思えましたか？

A. ……どちらともいえない



- 学校での防災マップづくり
- 親と一緒に通学路の点検
- 津波110番の家  
通学・帰宅途中で助けを求める「津波110番の家」を親子で決め了承を得る。



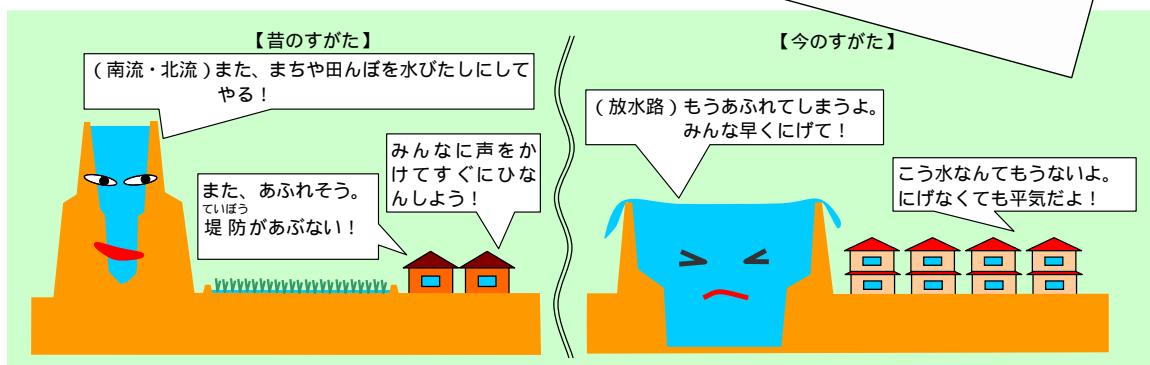
出典: 防災講演会(群馬大学大学院片田教授)資料を編集・転載

# リスクコミュニケーション

副読本を活用した学校での防災教育(守山市)

『野洲川の豊かな自然を未来へ』

- 郷土史学習用教材「わたしたちの守山」の副読本として作成。
- 国土交通省琵琶湖河川事務所が、守山市教育研究所のアドバイスを受けながら編纂。
- 平成19年度に市内の一部の小学校に配布。
- 水害との戦いの歴史や野洲川改修事業の学習と合わせて、野洲川改修後であっても超過洪水への備えの重要性について学習。
- 読本の中の挿絵



# リスクコミュニケーション

地域と連携した学校での防災教育(横浜市立新羽中学校)

- 学年ごとにテーマを決めて、**防災活動に参加**
- **地域の人たちと交流**することにより命を守る助け合いの絆を強くする。



救命救急の実習 / 3年生



地域の人たちとの  
合同訓練 / 2年生



地域を歩いて危険な場所をチェック  
防災マップ作り / 1年生

福祉よこはまホームページより 59

コミュニティの力をとり戻す  
仕組みづくり